

第6号
蒲田風箏



すばる

発行所
(株)鳥久
東京都大田区蒲田1-8-12
電話 03(5703)7575
発行人 小原秀之
印刷所 宮田印刷

七十歳で孫から平仮名を教わり、七十七歳で初めて筆をとつて書を書き、八十歳になつて今度は絵を描くようになり、誰の教えや指導も受けず、誰かに褒められるためでもなく、毎日の畠仕事の合間にただひたすら日記を書くように書画の楽しみを友

として、千葉の片田舎で黙々と九十二年の生涯をまつと

うした齊藤けさ江さん。

平成十八年一月、けさ江さんは、満九十二歳の生涯を閉じたが、晩年の一年間は入院と自宅療養の生活を余儀なくされながらもその書画に対する思いは強く、時に病床

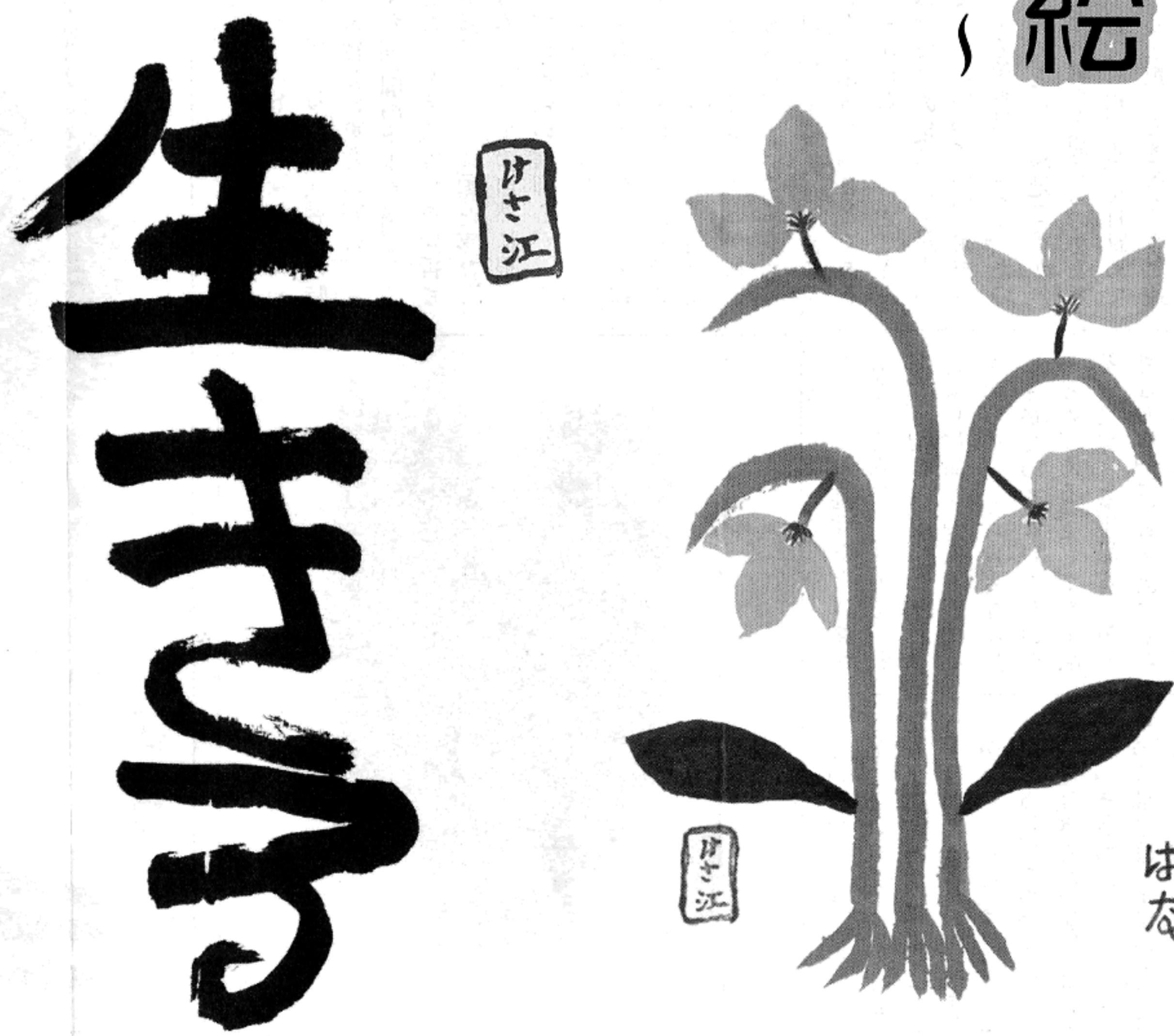
にあつても筆をとることが何度かあつた。

それら書画業の追悼展が今年五月、表参道の画廊で開催される。その初期作品から、未発表の晩年作品、そして入院中と絶筆となつた作品まで約六十点が初公開される。

会期中には「けさ江さんの書



たんぽとはたけに生きた
齊藤けさ江さんとの書と絵
（七十七歳から九十二歳までの渾身作）



の三館の美術館と昨年は大坂朝日新聞社本社にての展覧会でも大きな反響を呼び、それぞれ三千人という来場者があり、メディアでも大きく取り上げられた。

各地のかなりの遠隔地からたくさんの来場者がいらっしゃるが、なかでも驚いたのは、新聞社の広報をデンマーク人がインターネットで見て、日本の友人にぜひ観に行く

いたが会場内には笑いあり、涙ありの珍しい光景が繰り広げられていたことも印象的であった。

いずれの会場も高校生から年輩の方までさまざまだつたが、涙ありの珍しい光景が繰り広げられていたことも印象的であった。

けさ江さんの書画が、なぜこれほどまでに多くの人々

に人気があるのか。それは江さんがおばあちゃんだからなのだろうか。ならば世の中にはいわゆる絵手紙のよう

に素人ながら書や絵をたしなむ人はゴマランといふのではないか。

けさ江さんは少しテレビで紹介されたからといって

誰かの物真似やスタイルで書いたものではない、ということはすべてがオリジナルだということである。すべてとはまず題材(モティーフ)に嘘がない、生活の事実と眞実があるということである。

事実とは、自らが日々育てて

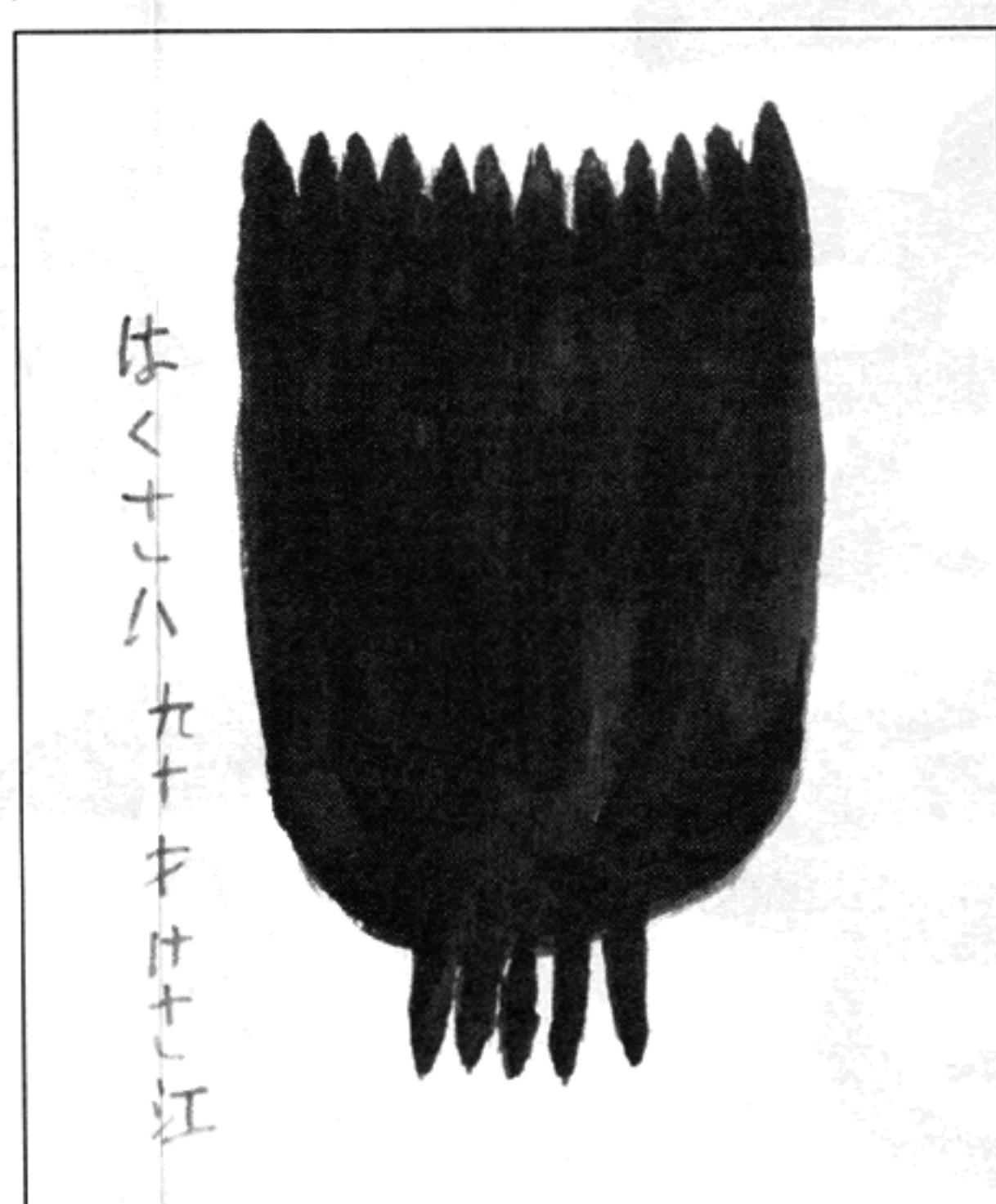
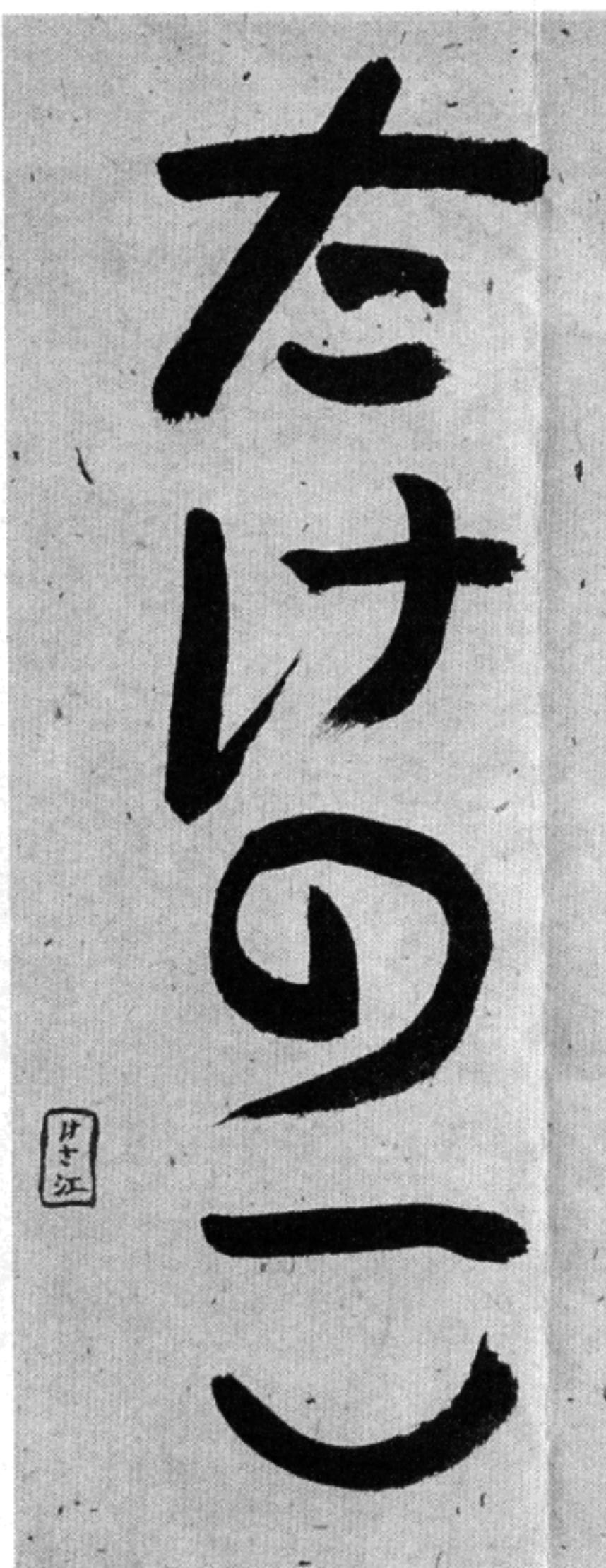
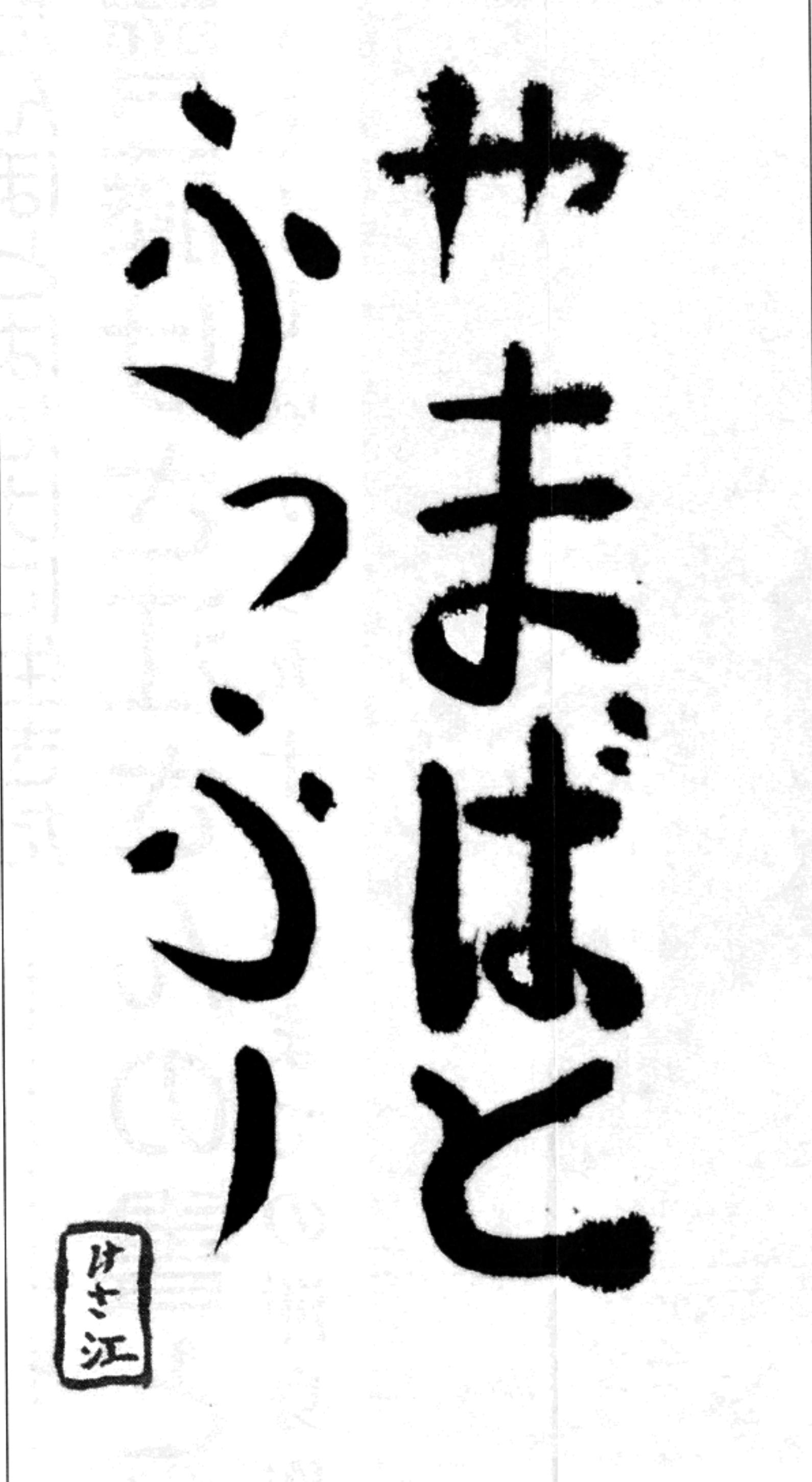
いる野菜や畑に顔を出す鳥や虫たち、まわりの自然などをそのまま素直に素直に書いていて、説明がなくとも、そこに見る人は物語を感じ取り想像できるのである。眞

実とは、そこに生きとし生けるものに対する深い愛情が宿っていることで、貧しい時代の貧しい東北の寒村に生まれ、苦闘の半生を過ごしてきたながらも人間性を屈折させることなく、感謝と喜びと日本人としての自然に根づいている深い信仰心が滲み出していることである。

それらがありながら、人に見せようと氣持ちで書いてはいないという、出発点がまったく違うことが何よりも大きいことなのである。

"無心"という言葉があるが、いちばん難しいことである。最もかかわらず、けさ江さんはほぼその境地に実際立っていたといつてい。書でも絵でも筆を持つことが"たのしい"という境地こそが無心と同義だと思えるのである。

書でも絵でも、毎日眺めていると飽きるものがある。飽きる飽きない、というのは主



によつて共通するとは必ずしもいえないが、その分かれ目は不思議なものだ。それは元より作品の上手、下手にかわらず、いくら達者な作品でも鼻につくというものがちならぬというものである。あるのである。ましてや上品そうに見える下品さは鼻も

格というものが漂つている。その稚拙さは、子供のものとは似て非なるものであり、一点一画にゆるぎのない真剣

ようにという出来事があった。まさに情報に国境なしとい

うインターネット時代ならく可愛いらしく映るから

何がどう違うか、比較することはあまり意味がないとは

描けないということ、つまり正真正銘のオンラインだ

ということが大前提にある。

誰かの物真似やスタイルで書いたものではない、とい

うこととはすべてがオリジナ

ルだということである。すべ

てとはまず題材(モティーフ)

に嘘がない、生活の事実と

眞実があるということである。

事実とは、自らが日々育てて

いる野菜や畑に顔を出す鳥

や虫たち、まわりの自然など

をそのまま素直に素直に書

いていて、説明がなくとも、

そこそこ見る人は物語を感じ

取り想像できるのである。眞

も有名人とはほど遠い存在だ。

見る人は何かが違うことを

直感で見極めているのだろう。

いえ、けさ江さんの世界はけ

さ江さんだけしか書けないし、

なのだろうか。書き手のけさ

江さんがおばあちゃんだから

なのだろうか。ならば世の

中にはいわゆる絵手紙のよう

に素人ながら書や絵をたし

なむ人はゴマランといふでは

ないか。

けさ江さんは少しテレビ

で紹介されたからといって

誰かの物真似やスタイル

で書いたものではない、とい

うこととはすべてがオリジナ

ルだということである。すべ

てとはまず題材(モティーフ)

に嘘がない、生活の事実と

眞実があるということである。

事実とは、自らが日々育てて

いる野菜や畑に顔を出す鳥

や虫たち、まわりの自然など

をそのまま素直に素直に書

いていて、説明がなくとも、

そこそこ見る人は物語を感じ

取り想像できるのである。眞

東北新幹線が強風のため午前中停止したこと。仙台駅は人で溢れて列を成していたが、改札は開いていて中には数人の駅員が立つたままだった。ガラガラのホームに上がってみると動き始めた列車が、これまたガラガラで入ってきたので静かな緊張感があるのだ。

さが溢れている。楽しい、と
いうことは、簡単に器用に筆
を動かすことではなく、一筆
一筆がそれこそ一期一会の
覚悟の上に立つた真剣勝負
だということを教えてくれ
ている。けさ江さんの七十七

歳から九十二歳までの残さ
れた数百点の書画は、一点た
りとも書き散らした安易な
ものはなく、すべて共通した
ゆるぎのない真剣さがあり、
その書の線は、烟の畠(うね)

のようくられており、何も足せ
ない、何も引けない画面とな
っている。

強く、その絵も一見単純そう
に見えながら、何十回と塗り
込められた線によって面が
形づくられており、何も足せ
ない、何も引けない画面とな
っている。

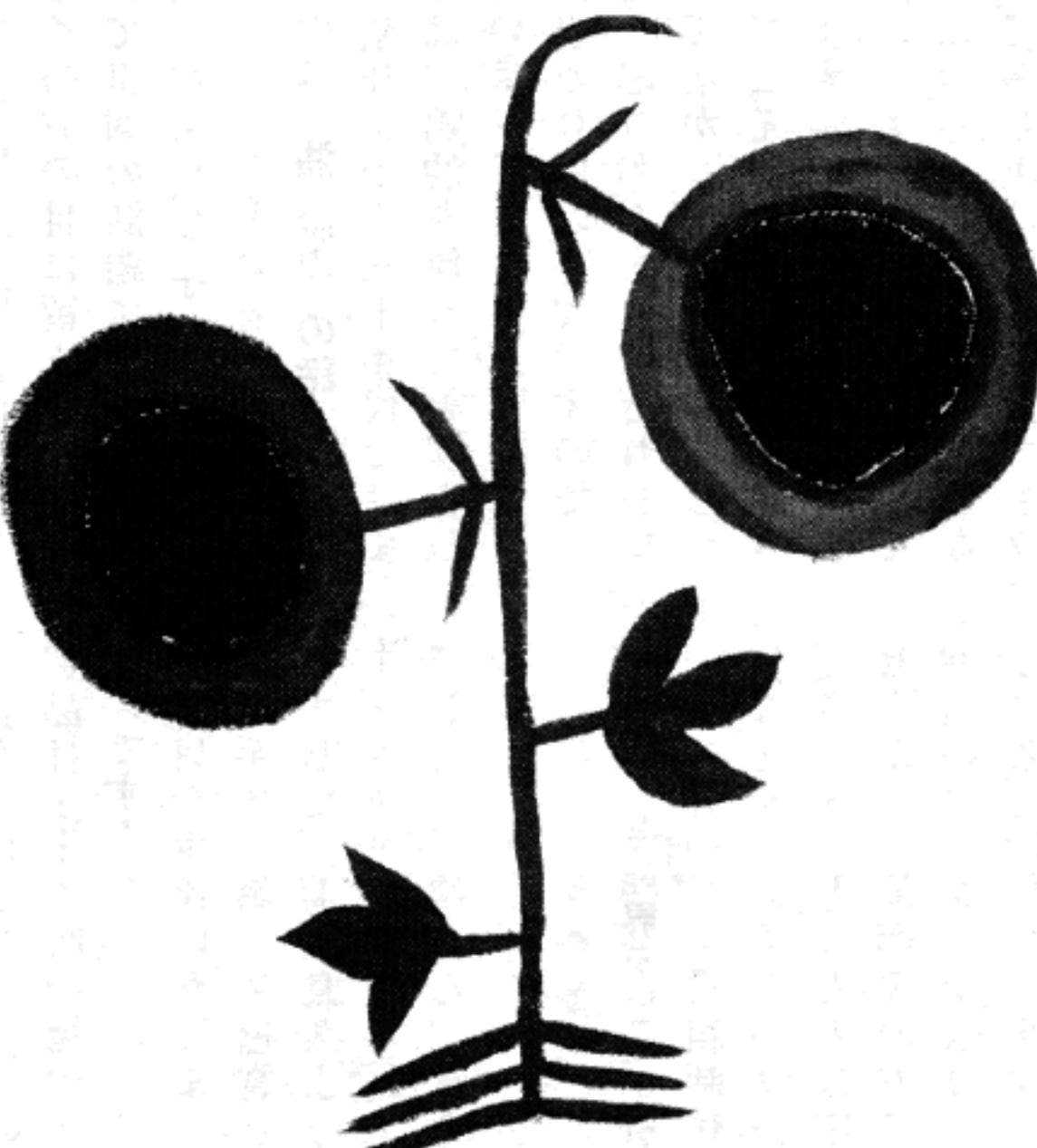
けさ江さんの書画を単なる素朴な仕事と受け取るの
は自由だが、その人間としての原初的な素心による書画
業には、結果として禅の心にも通じる深い精神性が宿っていることを教えられるのである。

けさ江さんの書画業の作品は、私たち自身の姿が映る一枚の鏡なのである。けさ江さんを知る以上に自分といおらず、誰の指導も受けておらず、誰の指図も受けていない。

けさ江さんは、結果として禅の心にも通じる深い精神性が宿っていることを教えられるのである。

けさ江さんは、結果として禅の心にも通じる深い精神性が宿っていることを教えられるのである。

まこが
のみがたく
さんひます左
左へまやん
しんご
すんはいす
てします
いすやに
ちれて
えん左ほうか
よいどす
もいます



みたやなま
ごくうすままでした
おさきにやしませ
ていただきます

古来、日本人は、海の彼方に神様の國があると信じ、そこから神様が海を渡つてやつてくると考えていました。ちなみに「えびす」とは、「よ

うと、七福神が有名です。大黒・毘沙門・弁財天はインドの神様であり、福禄寿・寿老人・布袋尊は中国の神様です。恵比寿さんだけが日本の神様なのです。ここにこと笑みをたたえ、右手に釣竿、左手に鯛を抱えた姿は、いかにも海に囲まれた日本の神様というお姿です。

「お寺なのに、どうして鳥居が立つのですか」とよく聞かれます。江戸時代まで、神仏習合だったので、お寺の境内に仏教の神様を祀り、鳥居を飾つたのです。

ところで一般的に神様というと、七福神が有名です。大黒・毘沙門・弁財天はインドの神様であり、福禄寿・寿老人・布袋尊は中国の神様です。恵比寿さんだけが日本の神様なのです。ここにこと笑みをたたえ、右手に釣竿、左手に鯛を抱えた姿は、いかにも海に囲まれた日本の神様というお姿です。

もう一つ鳥居を祀つているのが、金毘羅さんです。この神様もインドから仏教にとり入れられました。香川県の金毘羅さんは真言宗松尾寺の守護神（鎮守）として金毘羅神が祀されました。松尾寺あるいは金毘羅大権現の創建は不明です。明治の廃佛毀釈で鎮守社が神道に変わつたものと思われます。神名のコンピラというのは、サンスクリット語のクンビーラで、鰐です。川を神格化した弁財天は水の神様。川の中に棲んでいる鰐を神格化して、水を制御する神様として祀られました。

日本古来の神様と合体して恵比寿神になつたと言われています。その“えびす”とは、よ

◆◆ご案内◆◆
追悼
齊藤けさ江書画展 生きる力
2008年5月20日(火)~25日(日)
会場: 原宿アートスペースリビーナ
東京都港区北青山3-5-25
表参道ビル4F TEL.03-3401-2242
* 東京メトロ 表参道駅 A3出口

次号からは四行漢詩も復活し、新シリーズ読者投稿欄も企画しておりますので楽しみにお待ちいただたいと思います。
今後とも「鳥久」同様ご支援の程をよろしくお願い申上げます。

◆◆ご案内◆◆
追悼
齊藤けさ江書画展 生きる力
2008年5月20日(火)~25日(日)
会場: 原宿アートスペースリビーナ
東京都港区北青山3-5-25
表参道ビル4F TEL.03-3401-2242
* 東京メトロ 表参道駅 A3出口

諸事情によりしばらく休止状態でした「鳥久」を再発行することになりました。
今号は、以前にも特集させていたいたいた「齊藤けさ江」さんを全面的に取り上げさせていただきました。
けさ江さんは平成十八年二月に満九十二歳の天寿をまつとうされ、今年五月に「追悼展」が開かれ、未発表の最晩年作から絶筆まで公開され、会期中には子息らによる晩年の様子の談話もあります。
その書と画の旺盛な制作意欲は最期まで衰えることなく、入院中には右手が不自由な状態の中でも左手で書いた作品も初公開されます。
亡くなられて早や二年が経ちましたが、その「生きる力」と作品は今更ながらに光を放ち続けています。
次号からは四行漢詩も復活し、新シリーズ読者投稿欄も企画しておりますので楽しみにお待ちいただたいと思います。
今後とも「鳥久」同様ご支援の程をよろしくお願い申上げます。

◆◆ご案内◆◆
追悼
齊藤けさ江書画展 生きる力
2008年5月20日(火)~25日(日)
会場: 原宿アートスペースリビーナ
東京都港区北青山3-5-25
表参道ビル4F TEL.03-3401-2242
* 東京メトロ 表参道駅 A3出口



昭和35~6年頃の蒲田西口店



川崎球場で鳥久の弁当を頬張る観戦客

その一 鳥久の名前の由来
鳥久（とりきゅう）の屋号は、創業者の問馬瑞子（とうまみずこ）長女・明治三八年生の弟で長男の問馬高久（たかひさ）の「久」をとつて名付けられましたが、戦前には「鳥源」、戦後には「松竹」という名も使っていました。

次女清子（きよこ・鳥七（とりしち））と瑞子が、着物を着て日本髪を結い、二人で蒲田西口にあったそれぞれの店まで毎日歩いて行き来した姿が、多くの方の目に留まり、後々まで世間の話題になつたほどだつたといいます。

その二 油（脂）の話
昭和二十~三十年代半ばまでは、鶏油を使って調理をしていました。まだ親鳥（成鳥）が当たり前の時代ですので、たっぷり脂があり、それを集めて溶かして使つていました。

その三 場内に響いた鳥久
昭和四十年頃には全て植物油を使用するようになりました。

その四 芸能界デビュー⁈
テレビ局様や番組制作会社様などからよくご注文をいただきます。どなたとは申せませんが、芸能関係の方で鳥久しゃると聞いています。

ほっ 安心をお届けします

ほっ 充実した人生をお届けします

ほっ お気軽にご相談下さい

保険 ほっ
バンク

〒144-0052
東京都大田区蒲田4-47-5 第2石井ビル5F
有限会社 保険バンク 代表 八木 克昌
TEL. 03-5713-0033 FAX. 03-5713-0222
e-mail:yagi@insbank.co.jp

日通旅行
NIPPON EXPRESS

日本通運株式会社 首都圏旅行支店
tel : 03-6251-6351 fax : 03-6251-6361
e-mail : tea-masuda@nittsu.co.jp
〒105-8322 東京都港区東新橋1丁目9番地3号 日通本社ビル18階

Hamada Dental Clinic

はまだ歯科診療所

医療法人社団 亮和会 はまだ歯科診療所 理事長 浜田亮太
〒143-0016 東京都大田区大森北6-28-6-2F TEL 03-3768-9614
診療時間 月～金曜日 AM10:00～PM1:30 / PM3:00～9:00
土曜日 AM10:00～PM1:30 / PM3:00～6:00
休診日 日曜日・祝祭日

saki
太崎会計事務所
〒144-0035 東京都大田区南蒲田2-4-15 東邦本社ビル5F
TEL.03-5480-4561 FAX.03-5480-4561
HP http://www.osakikaikei.co.jp/
代表 大崎 正博
業務内容 会社設立 月次監査 会社決算申告個人申告
事業計画 企業・組織再編

羽田名物
横山せん庵
本店 羽田 4-22-10
羽田空港通り
売店 穴守神社前
電話 羽田 3741 1074

KEIHIN TENT
株式会社 京浜テント
テント・装飾・大型日除・看板・カッティング文字・インクジェット
アクリル・ネオン・金字
〒144-0052 大田区蒲田1-8-14 インテリア・ジュータン・カーテン・壁紙
TEL 3733-3561㈹ FAX 3738-7110 ブラインド・床・鉄骨・金物
URL : http://www.keihintent.co.jp その他・シート・カバー・旗・幕・袋物
Email : info@keihintent.co.jp
リフォーム&看板 事業部 快適空間

創業昭和3年鳥専門の弁当屋

浦田 **鳥久**

東口店 大田区蒲田 5-16-1
TEL 03-3738-5736
営業時間 7時～20時(売り切れ閉店)

鳥久本店 大田区蒲田 1-8-12

TEL 03-3731-5888 (配達受付)
営業時間 6時30分～18時
(売り切れ閉店)

惣菜からたつ 本店横
TEL 03-3732-2415
営業時間 10時30分～19時30分

至品川 本店
からたつ
JR 蒲田駅
至横浜 東口店
http://www.torikyu.co.jp/

創業八十周年!
鳥久からのお知らせ

「昭和三年（一九二八年）に鶴見の地にて「都鳥（みやことり）」という屋号で創業以来、本年をもちまして八十年を迎えることとなりました。八十年といいますと、太平洋戦争や高度成長、昭和のオイルショックから平成バブル、そしてバブルの崩壊と、様々な出来事があつた中、何とか現在まで生き残れましたのは、愚直なまでに「鶴肉」にこだわった「鳥久らしさ」と、何より多くの皆様に温かく支えていただきおかけであると深く感謝しております。

昨年（二〇〇七年）、四十五年もの長きに渡り出店をしてまいりました蒲田駅ビル店を閉店し、新たに本店横に「鳥久惣菜からたつ」をオープンいたしました。路面店舗で惣菜を販売する難しさを学び、また駅ビルにいいたしました。

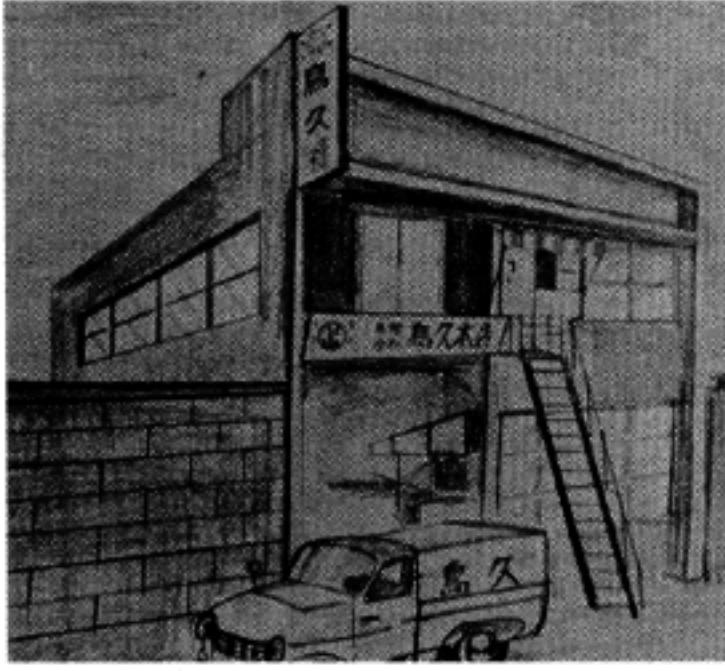
昭和二十九~三十年代半ばまでの、多少不便な場所ではございませんが、どうぞご利用くださいませ。

今後は九十周年、百周年に向かって、「老舗」として皆様から愛される店を目指してまいりますので、何卒ご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

しかし若鳥（ひな鶴／生後八十日程度の若い鳥）へのシフトと、販売量が伸びるにともない、鶏油だけでは間に合はず、当時は高価な白絞油（しらしめゆ／菜種・大豆油）へと徐々に変わっていきました。

昭和二十九~三十年代半ばまでは、鶏油を使って調理をしていました。まだ親鳥（成鳥）が当たり前の時代ですので、たっぷり脂があり、それを集めて溶かして使つていました。

昭和二十九~三十年代半ばまでは、鶏油を使つて調理をしていました。まだ親鳥（成鳥）が当たり前の時代ですので、たっぷり脂があり、それを集めて溶かして使つていました。



蒲田3丁目にあった本店のイラスト

鳥久からのお知らせ